



東京「ドリーム夜さ来い」

89チーム 6000人参加

【東京支社】首都圏などのよさこいチームが集う「ドリーム夜さ来い祭り」が3、4の両日、都内で開かれた。秋空の下、89チーム、約6千人の踊り子が笑顔いっぱい、踊りを披露し、道行く人の目を楽しませていた。

実行委（扇谷ちさと委員長＝高知市出身）の主催。踊りは東京・

本県「とらっく」も舞う

大勢の観光客の前で、威勢よく舞う「とらっく」の踊り子たち（東京駅前・丸の内会場＝神野浩一氏撮影）

会場周辺や有楽町、東京の両駅前の各会場で披露された。

本県から唯一参加したのは、今年の「よさこい大賞」を受賞した「とらっく」。「踊りが楽しくて仕方ない気持ち」（磯木保広総代表を表したという、ひとときわあでやかな衣装での演舞に、他県の参加者も「さすが高知の1番だね」と見入っていた。

東京駅前の丸の内会場は、同駅舎の保存、復元工事が完了して間

もないこともあって、観光客らでにぎわった返し。よさこいの音色に誘われるように、大勢の観衆が軽快な鳴子のリズムに体を揺らしていた。

同委は来春、米国で「ドリーム夜さ来い祭り in New York」の開催を計画している。扇谷委員長は「踊りたいし、踊りを見てもらいたい一心でこれまでやってきた。そんな気持ちと一緒に、よさこいが世界に広がればと思う」と意気込んでいた。

（海路佳孝）